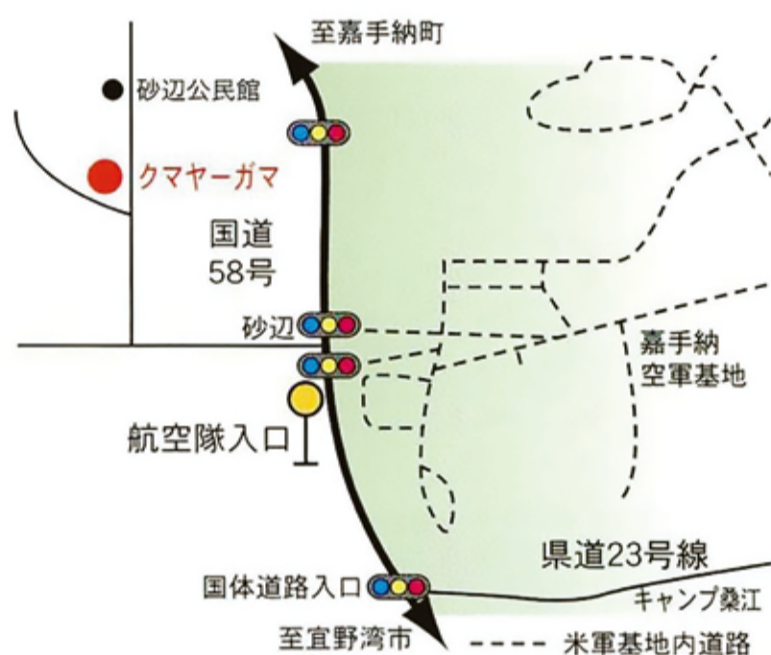


# クマヤーガマ



所在地：北谷町字砂辺50番

立地：標高7mほどの低く平たい石灰岩台地が浸食された鍾乳洞

形態：全長約40mの3つの洞穴からできている

砂辺地区にあるクマヤ洞穴遺跡。標高7mほどの低く平たい石灰岩台地が浸食されてできた鍾乳洞で、全長約40mの3つの洞穴からできている。条痕文土器が発掘されたことから、縄文前期に相当する5千年前のものとされている。メノウや貝製腕輪、中国青磁・白磁、ガラス玉なども多く出土したという。

## 砂辺の人々の避難壕

クマヤーガマは砂辺部落の人々の命の守り神である。米軍の10・10空襲(1944年10月10日)やそれ以降の米軍のすさまじい艦砲射撃、空からの機銃掃射などの際、砂辺部落の人々はいち早く同ガマに避難し、砲撃から身を守った。

砂辺の人々は米軍上陸の数日前に全員が同じガマを出て、山原などに避難したため、ガマの中で戦死者は一人もでていない。

同ガマには空気の流通をよくするために空気孔をあけた跡がいくつかある。また、洞穴内には3つの広場がありそれぞれ炊事場、寝床などに利用されていた。しかし、洞穴内には数百名の人々が避難していたため、換気も悪く、そのうえ湿度も高く、衰弱していく者も多かったという。

また、同ガマでは先史時代の遺骨も多数出土しており、長い歴史の中で重要な役割を果たしてきたことが分かる。



クマヤーガマ(洞穴Ⅱ砂辺在)の内部